

## 研修プログラムについて

### 1. 研修プログラムの種類

研修プログラムは次の二種類として、研修目的に合わせて選択する。

- (1) 重症心身障害医療臨床研修プログラム（一週間コース）
- (2) 重症心身障害医療臨床研修プログラム（一日コース）

### 2. 研修コース

#### (1) 一週間コース

研修プログラム（一週間コース）は、栃木県内で初期臨床研修を受ける者が、研修の一環として重症心身障害医療の研修を受けることができるよう、スムーズな受入体制の構築に寄与することを目的とする。

#### (2) 一日コース

研修プログラム（一日コース）は、臨床研修医以外の若い医師が、臨床研修制度の枠にとらわれず、支える医療としての重症心身障害医療に触れ、幅の広い医療の経験や知見を広げる一環として、スムーズに医師を受け入れるための体制の構築に寄与することを目的とする。

### 3. 必須項目と推奨項目

一週間コースには、必須項目と推奨項目を用意した。研修を実施する病院にはそれぞれ特徴があり、研修医師に理解してもらいたい医療の内容や、力を入れたい項目も異なることから、それぞれの病院により特徴を活かして研修が実施できるよう幅を持たせたものである。

### 4. 活用方法

この研修プログラムはあくまでモデルであり、それぞれの施設にあったものに変更して活用いただきたい。一人でも多く臨床研修医や若い医師が重症心身障害医療に触れ、幅の広い医療の経験や知見を広げることができればと願う。

# 重症心身障害医療臨床研修プログラム

## (一週間コース)

### 1. 概要

初期臨床研修の中で、地域医療研修の一環として重症心身障害医療の研修を一週間コースで行う。

### 2. 運営

本プログラムの運営は、管理型臨床研修病院と重症心身障害病棟を有する協力的臨床研修病院（以下「重症心身障害医療研修病院」という）において審議のうえ運営する。

### 3. 臨床研修責任者

重症心身障害医療研修病院の臨床研修責任者

### 4. 指導医

重症心身障害医療研修病院の臨床研修指導医

### 5. 一般目標

重症心身障害医療を理解し、その療育に必要な知識、技能、態度を学ぶ

#### 必須項目

- (1) 重症児者の基礎疾患の理解
- (2) 重症児者に起こりやすい症状、病態と対応の理解
- (3) 重症児者の日常的な医療処置の理解と技術習得
- (4) 療育におけるチーム医療の理解と体験

#### 推奨項目

- (5) 重症心身障害医療の歴史・背景を学ぶ
- (6) 在宅重症児者の生活を知り、支援としての医療を理解
- (7) 特別支援学校の障がい教育を知り、医療的ケアを理解
- (8) 重症児者への福祉サービスについての理解

### 6. 行動目標

#### 必須項目

- (1) 重症児者の基礎疾患を列挙できる
  - ① 呼吸障害を部位ごとに分類でき、対応を説明できる
  - ② 人工呼吸器の設定の基本を説明できる
  - ③ 関節拘縮・変形、脊椎変形がその他へ影響する関連を理解できる
  - ④ GER（胃食道逆流）への対応を説明できる
  - ⑤ 重症児者への栄養方法を説明でき、必要栄養摂取量を理解し算出できる
  - ⑥ 重症児者の栄養剤の特徴を説明できる
  - ⑦ 重症児者のてんかんの特徴を列記できる

- (2) 重症児者に起こりやすい症状・病態及び対応
  - ① 経管チューブの挿入を見学または施行できた
  - ② 点滴を施行できた
  - ③ 気管カニューレの交換を見学または施行できた
- (3) 療育におけるチーム医療の理解と体験
  - ① 以下の重症児（者）の看護・療養介助を体験できた
    - Ⓐ風呂の介助   Ⓑ食事介助   Ⓒ体位変換   Ⓓ清拭介助
  - ② 重症児者に関わる他職種（看護師、PT、OT、ST、指導員、保育士、栄養士）の役割を理解できた
  - ③ 重症児者への他職種の関わりを体験できた

#### 推奨項目

- (4) 重症心身障害医療の歴史・背景が理解できた。
- (5) 在宅重症児者の生活を知り、支援としての医療を理解
  - ① 重症児者通園事業について理解または見学できた
  - ② 重症児者のショートステイ事業について理解できた
- (6) 特別支援学校での医療的ケアを見学または理解できた
- (7) 重症児者の福祉サービスについて講義を受けた

### 7. 方 略

- (1) 重症児者研修病院において、指導医の指導の下に診察、検査、治療などの診療を行う。
- (2) 重症心身障害医療の基礎知識の習得のために指導医のもと講義を受ける。
- (3) 重症児者に関わる他職種と連携をとりながら療育活動、在宅支援事業、特別支援学校を見学し体験する。

※印部分は省略することができる。(以下同じ)

### 8. 評 価

- (1) 研修医の評価  
研修終了時に評価表に従って自己評価と指導医による評価を行う。
- (2) 指導医の評価  
指導医も自己評価と研修医による評価を行う。
- (3) 研修プログラムの評価  
研修医や指導医の意見を聞き、プログラムに問題が生じた時点で研修委員会を開催し、適宜修正を行う。

### 9. 研修内容

- (1) 講義受講項目

#### 必須項目

- ①重症児者の定義、基礎疾患
- ②重症児者に起こりやすい病態と対応（呼吸、消化器、てんかん）

- ③重症児者のリハビリテーション
- ④重症児者の栄養管理

**推奨項目** ⑤重症心身障害医療の歴史・背景

⑥重症児者の療育、在宅支援<sup>\*</sup>

(2) 経験項目

**必須項目** ①診 療 診察、診断、リハビリテーション（肺理学療法も含む）

②療 育 療育活動、食事介助、入浴介助

**推奨項目** ③教育福祉関連 特別支援学校見学、通園事業見学

④その他 家族面談

(3) 経験スキル

**必須項目** 経鼻経管チューブ挿入、気切チューブ交換、呼吸器回路交換、  
身長測定、必要加リー評価、摂食嚥下評価、摂食嚥下訓練

**推奨項目** 採血、点滴、口腔ネラトンチューブ挿入、鼻咽頭エアウェイ挿入、  
気管支鏡検査、胃食道 24 時間モニター、脳波検査、VF 検査、VE 検査

10. 指導体制

- (1) 総括 : 臨床研修責任者
- (2) 診療 : 指導医、看護師長、リハビリスタッフ
- (3) 療育 : 指導室長、主任保育士
- (4) 在宅 : 指導室長、担当看護師

**参 考** カリキュラム (例)

区分	月	火	水	木	金
午前	オリエンテーション 講義①②	病棟診療 学校見学 食事介助	病棟診療 摂食嚥下訓練	病棟診療 講義⑥ リハビリ実習	病棟診療 通園事業見学
午後	病棟診療 講義③	入浴介助 講義④	講義⑤ 療育活動体験	病棟診療 看護体験	病棟診療 総 括

# 重症心身障害医療研修プログラム(一日コース)

## 1. 概 要

重症心身障害医療についての研修を1日コースで行う。

## 2. 運 営

本プログラムの運営は、研修委員会において審議のうえ運営する。

## 3. 臨床研修責任者

重症児者研修病院の臨床研修責任者

## 4. 指導医

重症児者研修病院の臨床研修指導医

## 5. 一般目標

重症心身障害医療を理解し、その療育に必要な知識、態度を学ぶ。

- 1) 重症児者の重症児者基礎疾患の理解
- 2) 重症児者に起こりやすい症状、病態と対応の理解
- 3) 重症児者の日常的な医療処置の理解
- 4) 重症児者療育におけるチーム医療の理解と体験

## 6. 方 略

- 1) 重症児者研修病院において、指導医の指導の下に診察、検査、治療などの診療を見学する。
- 2) 重症心身障害医療の基礎知識の習得のために指導医のもと講義を受ける。
- 3) 重症児者に関わる他職種と連携をとりながら療育活動、在宅支援事業<sup>※</sup>、特別支援学校<sup>※</sup>を見学し体験する。  
※印部分は省略することができる。(以下同じ)

## 7. 評 価

- 1) 研修医の評価： 研修終了時に評価表に従って自己評価と指導医による評価を行う。
- 2) 指導医の評価： 指導医も自己評価と研修医による評価を行う。
- 3) 研修プログラムの評価： 研修医や指導医の意見を聞き、プログラムに問題が生じた時点で研修委員会を開催し、適宜修正を行う。

## 8. 研修内容

### 1) 講義受講項目

- ① 重症児者の定義、基礎疾患
- ② 重症児者に起こりやすい病態と対応（呼吸、消化器、てんかん）
- ③ 重症児者のリハビリテーション
- ④ 重症児者の栄養管理
- ⑤ 重症児者の療育、在宅支援<sup>\*</sup>

### 2) 経験項目

- ① 診療 診察、診断、リハビリテーション（肺理学療法も含む）
- ② 療育 療育活動、食事介助、入浴介助

## 9. 指導体制

- 1) 総括： 研修責任者
- 2) 診療： 指導医、看護師長、リハビリスタッフ
- 3) 療育： 療育指導室長、主任保育士
- 4) 在宅： 療育指導室長、担当看護師

## 参考 カリキュラム（例）

9:00～11:00	重症心身障害の定義・成因・病態・実態・支援の現況等に関する講義
11:00～12:00	重症児者病棟で、実際の医療の見学（肺理学療法やリハビリなど）
13:00～14:00	重症児者病棟で、経口摂取が可能で誤嚥のリスクが少ない患者を対象に摂食介助の実技体験
14:00～16:00	比較的コミュニケーションがとれる患者を対象にした個別保育体験
16:00～17:00	総合討論

## 臨床研修記録

重症心身障害医療（一週間コース）

平成 年 月 日（ ）

研修医氏名

管理型病院名

## 1. 本日実施したこと

午前	午後	夕方 ~ 夜

今日新しく気づいた、できた、やった事	今日うまくいかなかった事
今の気持ち、感情	今後研修したい内容、願望

## 2. その他

毎日作成してください。研修終了後にコピーを指導医へ提出してください。

臨床研修レポート  
重症心身障害医療（一週間コース）

研修医氏名

管理型病院名

研修期間 年 月 日～ 年 月 日

1. 経験した内容
2. 経験項目・経験スキルの達成度（%）
3. 達成できなかった項目・スキル
4. 自己学習したトピックス
5. 印象に残った出来事
6. 自己評価できる点
7. 自己反省点
8. 指導側への要望
9. その他

（研修終了後に記入し、指導医へ提出してください。）



## 臨床研修評価表

## 重症心身障害医療（一週間コース）

研修医氏名

管理型病院名

研修期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	研修医 自己評価	指導医 評価
<b>必須項目</b>		
重症児者の基礎疾患を列挙できる		
呼吸障害を部位ごとに分類でき、対応を説明できる	a b c	a b c
人工呼吸器の設定の基本を説明できる	a b c	a b c
関節拘縮・変形、脊椎変形がその他へ影響する関連を理解できる	a b c	a b c
GER（胃食道逆流）への対応を説明できる		
重症児者への栄養方法を説明でき、必要栄養摂取量を理解し算出できる	a b c	a b c
重症児者の栄養剤の特徴を説明できる	a b c	a b c
重症児者のてんかんの特徴を列記できる	a b c	a b c
重症児者に起こりやすい症状・病態及び対応		
経管チューブの挿入を見学または施行できた	a b c	a b c
点滴を施行できた	a b c	a b c
気管カニューレの交換を見学または施行できた	a b c	a b c
療育におけるチーム医療の理解と体験		
重症児（者）の看護・療養介助を体験できた	a b c	a b c
重症児者に関わる他職種（看護師、PT、OT、ST、指導員、保育士、栄養士）の役割を理解できた	a b c	a b c
重症児者への他職種の関わりを体験できた	a b c	a b c
<b>推奨項目</b>		
重症心身障害医療の歴史・背景が理解できた	a b c	a b c
在宅重症児者の生活を知り、支援としての医療を理解		
重症児者通園事業について理解又は見学できた	a b c	a b c
重症児者のショートステイ事業について理解できた	a b c	a b c
特別支援学校での医療的ケアを見学または理解できた	a b c	a b c
重症児者の福祉サービスについて講義を受けた	a b c	a b c

a	目標が充分達成できた
b	目標がある程度達成できた
c	目標がほとんど達成できなかった

（研修終了後に自己評価をして、指導医へ提出してください。）

臨床研修レポート  
重症心身障害医療（一日コース）

研修医氏名

管理型病院名

研修日 平成 年 月 日

1. 経験した内容
2. 印象に残った出来事
3. 自己評価できる点
4. 指導側への要望
5. その他

（研修終了後に記入して、指導医へ提出してください。）